

学生アンケート調査結果の報告

2009年4月実施新入生編

平野 緑・高橋 徹*

愛知みずほ大学人間科学部

*愛知みずほ大学情報教育センター

本学では過去に学生の意識調査を行ってきた。全学生を対象にした調査は過去3回実施した。今回は新入生だけを対象にしたアンケート結果である。

アンケート回答者数は以下の通りで、入学者のほぼ全員である。

表1 アンケート回答者数

1回生	
保健・養護	27
保健体育	19
医療クラーク	5
心理・カウンセリング	21
精神保健・社会福祉士	9
計	81

Q1. 本学(愛知みずほ大学)の名前を何で知りましたか。(複数回答可)

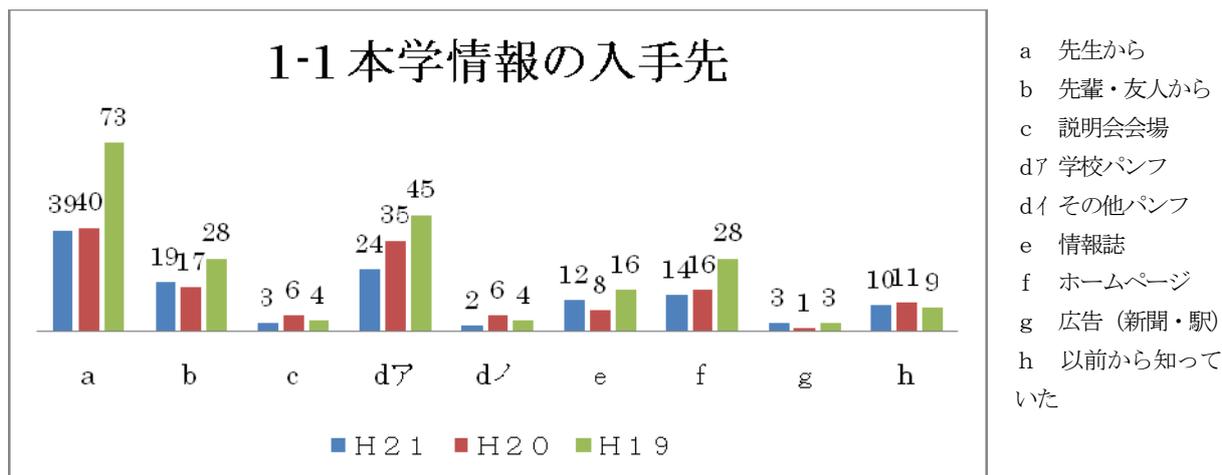


図1 本学の情報の入手先

本学(愛知みずほ大学)の名前の情報源は、在学している学校の「先生からの情報」と答えた学生が例年同様多く、続いて「学校でみたパンフレット」、「先輩・友人の薦め」、「ホームページを見て」という回答が多かった。この順序は昨年、一昨年と同様である。一方、人数が少なかった項目は「説明会会場」「その他パンフ」「広告(新聞・駅)」という項目である。こ

これらの項目は毎年少ない。全体数が減少している中で「先生から」が相変わらず多いのはやはり注目すべきである。

「以前から知っていた」という項目は、毎年同じくらいで、全体が減っている中では割合としては、増加していることになる。瀬木学園を知っている関係者が勧めてくれたのだと思われる。昨年より増えているのは、「情報誌から」という項目で、これも全体数が減っている中で増加している点は、注目すべきかも知れない。

Q2. あなたが本学を選んだ理由は何ですか。(複数回答可)

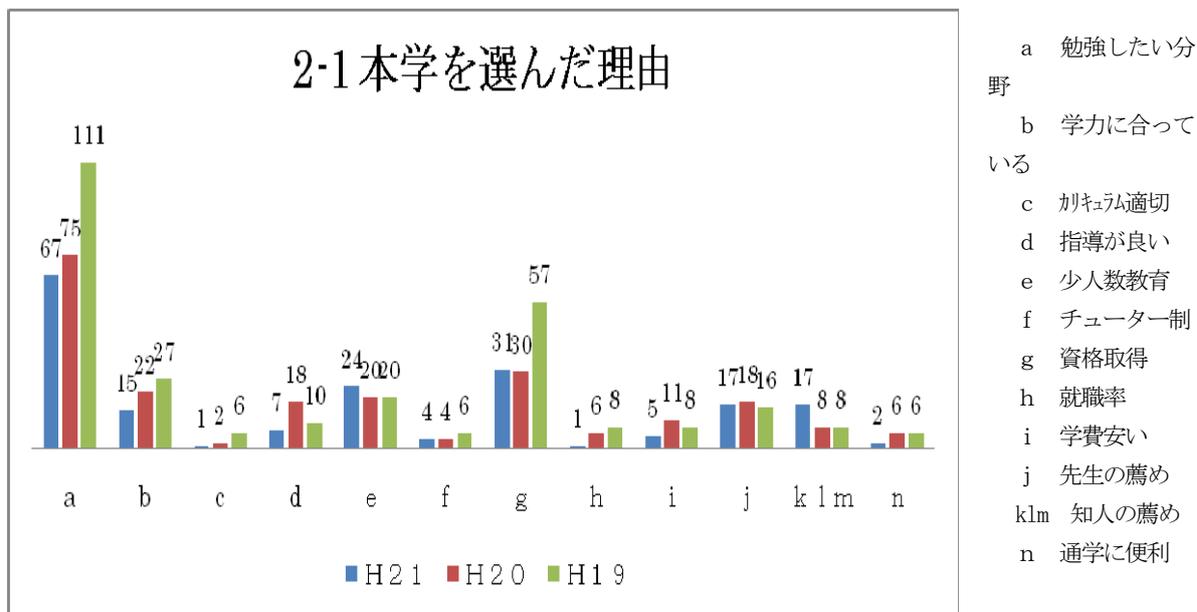


図2 本学を選んだ理由

ここでも全体としては、前年度とほぼ同様の傾向が見られた。学生が本学を選んだ理由としては、「自分が勉強したい分野である」と答えた学生が最も多く、続いて「目指す資格を取得するため」、「少人数教育に関心を持ったので」、「先生の勧め」「知人の勧め」「自分の学力に合っている」という順で回答が多かった。今回絶対数が昨年より減っているにもかかわらず増えているかまたは同じくらいの項目は、「少人数教育」「資格取得」と「先生の勧め」「知人の勧め」である。特に注目すべきは、「知人の勧め」が2倍の数になっている点で、この中でも瀬木学園を知っている人の勧めである。Q1で、どこで本学を知ったかと同様、先生、友人、知人の勧めなど周りの身近な人たちから情報を得ているようである。

g 「資格取得のため」本学を選んだ学生たちが目指す資格は以下の通りである。

表2 コースごとの目指す資格

	小学校	保健体育	養護	スポーツ 関係	医療関係	社会福祉士	心理士	精神保健	人間工学 準専門士	合計
保健・養護	1		13							14
保健体育		7		1						8
医療クラーク										0
心理・カウンセリング			2				2		1	5
精神保健・社会福祉士							1	1		2
合計	1	7	15	1	0		1	2	1	29

取得したい資格の内容は、教員免許では①養護教諭15名②保健体育7名③教員免許(小学校)1名。

医療クラークコースの資格を目指す学生はいない。心理と福祉関係は2名である。

全体としては何らかの資格を取得したくて入学した学生の割合は昨年と比較すると全体で27名が29名になり微増だが、割合では36%で、昨年の30%より多くなっている。

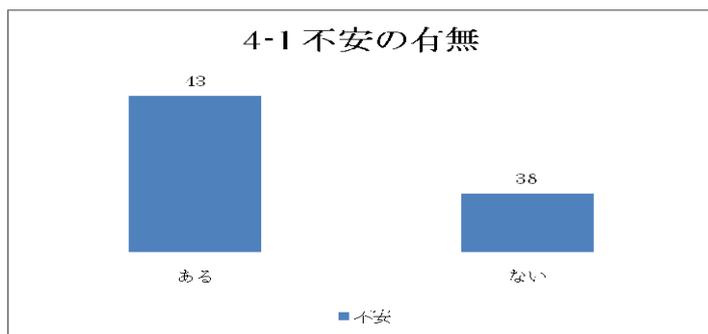
Q3. あなたは、入学したら参加したい部、サークルがありますか。

表3 参加したい部、サークルの内訳

学内		学外
バスケット部	3	
テニス部	2	
フットサル部	2	
サッカー部	2	
野球部	2	
バドミントン部	1	
ダンスサークル部	1	
フィギュアスケート部	1	
水泳部	1	
計	15	計 0

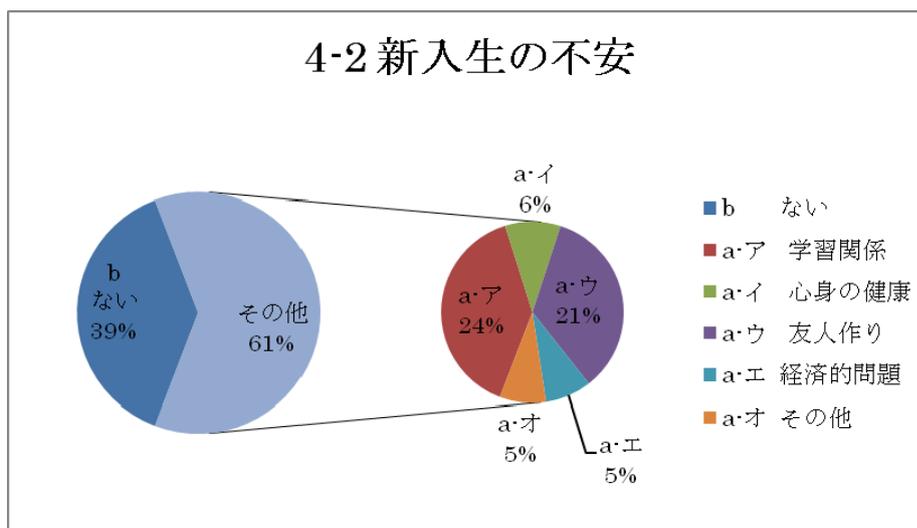
部活への参加意欲は一昨年32名が昨年15名になり今年も15名（一昨年24%、昨年17%、今年19%）である。部活動の現在の実態は、スポーツの団体競技の野球やソフトボール、サッカー、バスケット、バレーボール等は部員数が揃わず、運営に支障をきたしている。一人の学生がいくつも掛け持ち参加して対外試合に出ている実態がある。さらに学生会の役員をしようとする学生は部活動をする学生が多く、部活動だけでなく学生会活動も参加する学生がいなくなっており、大変心配である。今現在、来年度の学生会役員候補者を募集しているが、なり手が少なく厳しい現状である。

Q4. 現在、あなたが不安に思うことはありますか。



悩みを抱えている学生は53%である。その学生は複数の悩みを抱えている。件数は99件。

図3 不安の有無



次にあると答えた内容を分析した（左図。右の小円は「ある」の内訳）。内容の構成順序は、昨年と変わらず、学習面、友人作りが多い。

- a ある
 - ア学習
 - イ心身
 - ウ友人作り
 - エ経済
 - オその他
- b ない

図4 1年生の不安

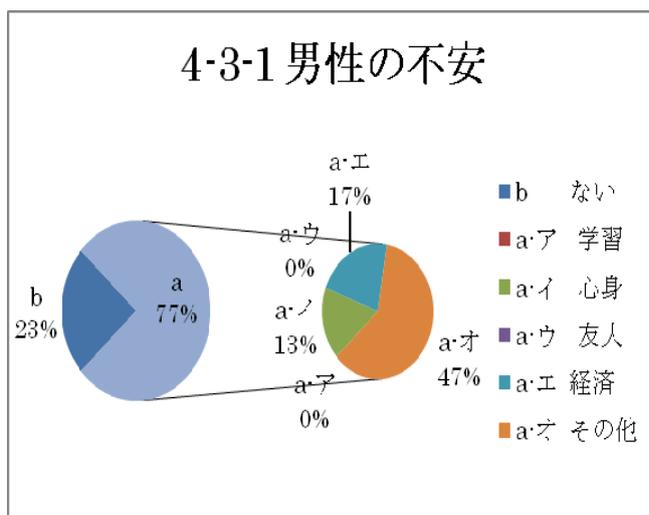


図5 男性の不安

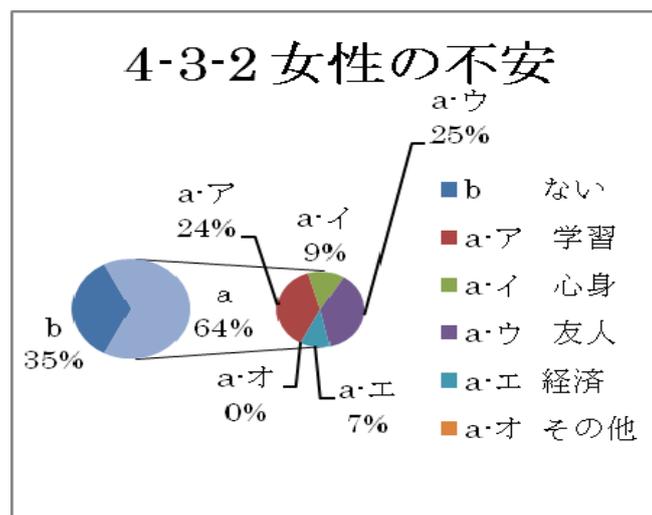


図6 女性の不安

男女別では、女性（69人74%）が男性（30人59%）より不安を抱えている。その内容は、男性は経済面、心身面が多い。女性は友人作り、学習面が目立つ。

表4-1 不安項目ごとのコース内の件数と割合

	学習		心身		友人		経済		その他		特にない	合計	
保健・養護	8	31%	1	4%	8	31%	2	8%	0	0%	14	54%	33
保健体育	3	15%	0	0%	2	10%	0	0%	3	15%	12	60%	20
医療クラーク	0	0%	0	0%	1	20%	0	0%	0	0%	4	80%	5
心理・カウンセリング	10	48%	4	19%	6	29%	2	10%	2	10%	6	29%	30
精神保健・社会福祉	3	33%	1	11%	4	44%	1	11%	0	0%	2	22%	11
件数	24	30%	6	7%	21	26%	5	6%	5	6%	38	47%	99

不安項目をコースごとに分析してみると、保健・養護コースでは学習面と友人作りが、保健体育コースでは学習面が、医療クラークでは、友人作りが大きい。心理・カウンセリングコースは、学習面が、精神保健・社会福祉士コースでは、友人作り、学習面がそれぞれ高い値を示している。

不安の内容の具体的な記述は49件（1人あたり0.6件）で、ア「学習関係」43%、ウ「友人づくり」33%、イ「心身の健康」8%、エ「経済的問題」6%、オ「その他」10%である。

表4-2 「学習関係の不安」の内訳

ついていけるか	14
英語が苦手	2
単位が取れるか	2
カリキュラム編成	2
資格が取れるか	1
計	21

ついていけるかと心配している学生の中に、自分は編入生だから、定時制卒だからという理由で心配している学生がいる。具体的な科目の記入としては、英語に不安を抱えており、毎年記述されている。

表4-3 「心身の不安」の内訳

生理痛がひどい	1
入学後の体調管理	1
チックのある私を受け入れてもらえるか	1
過呼吸になることがあるから	1
計	4

不安の件数は4件と少ない。しかし例年のようにこの不安の内容は、実際の件数のほんの一部と思われる。退学をして行く学生の多くは、ここで書けないような深刻な悩みを抱えており、表面に出していないだけであろう。ここに書かれているものも本人にとっては、新たな生活を始めるにあたって大きな問題であると思われる。

表4-4 「友人作り」の不安の内訳

友人ができるか	4
人見知りがはげしい	4
なじめるか心配	2
編入生なので受け入れてもらえるか	2
友人が欲しい	1
同じ高校から進学者がいない	1
男性が殆んどいないから	1
少人数の大学だから逆に心配	1
計	16

学生生活が楽しく始まるか否かは友人の存在にかかっているといっても過言ではない。人見知りなので良い友人ができるかどうか心配している。男性が少ないのでと男子学生は心配している。少人数の大学だから逆に心配と本学の特徴をふまえた上での不安も記述されている。

表4-5 「経済的問題」の不安の内訳

不景気で就職ができるか	1
母子家庭で収入が少ない	1
不景気で父の仕事が減ってきているから	1
計	3

不景気で経済面の不安を抱えている学生も実際にはもっと多くいると思われる。深刻な悩みである。学費の滞納者も多く、このため途中で退学せねばならない学生がいる。世の中の経済情勢がますます不景気になり深刻な悩みになっている。

表4-6 「その他」の不安の内訳

遠距離通学	3
具体的には分からないが不安がある	1
遅刻しないか	1
計	5

遠距離通学については昨年も記述されていたが、今年は3件ある。遅刻しないかと不安に思っている学生は通学生か、下宿生か分からないが自立した生活を営むことが難しい学生のような。遅刻しないことは学生生活を無事やり遂げるためには大事な要素である。単位が足りなくなる学生に遅刻の常習者は多い。

Q5. あなたは現時点で、卒業後の方向についてどう考えていますか

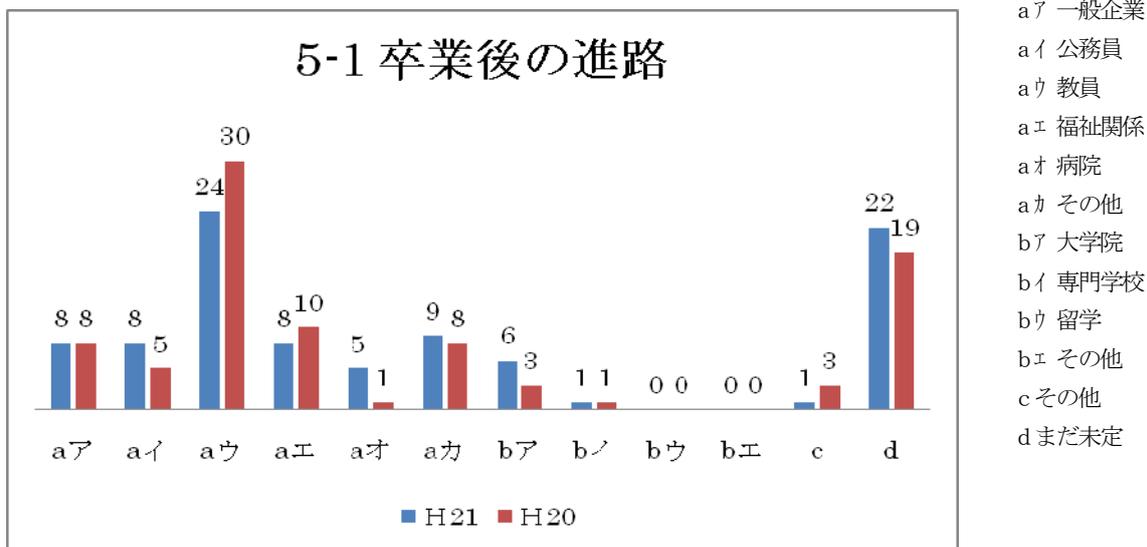


図7 卒業後の進路

卒業後の進路で「就職する」と答えた学生で、就職したい先を「教職」としている学生が昨年同様最も多い(24名)。次に多い項目は一般企業、公務員、福祉関係、とどれも同じ件数である。表2の目指す資格のところでは教員資格は23名が目指していたが、ここでは24名が卒業後の進路を教師としている。棒グラフからもわかるように全体の流れは昨年と同様な傾向がみられる。

卒業後の進路を図示すると下図の通り。(右の円グラフは「就職する」の内訳)

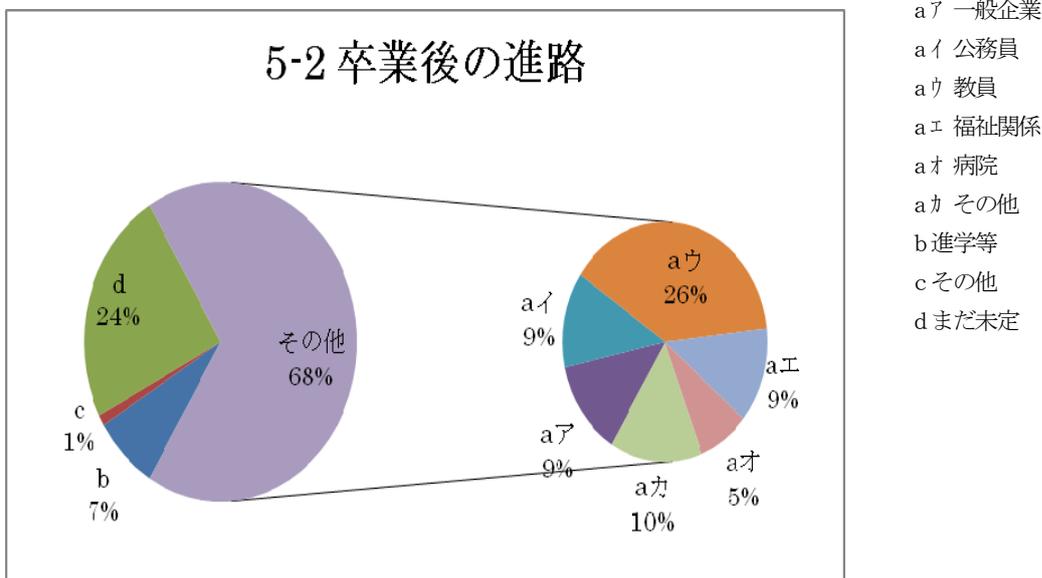


図8 卒業後の進路1年生

以上、データ数が少なく統計処理の意味がない項目もあったが、アンケートの結果は昨年と同じような傾向を見せる項目が多かった。図1の本学の情報入手先や図2の本学を選んだ理由等である。ここで見られるのは、身近な教師や友人知人のアドバイスが大きいことが伺える。一方少ないながらも受験生が本学を選んだ理由や、大学の情報入手先は広告よりは情報誌、情報誌よりはインターネットからという傾向がずっと続いてきている。

参考：2005年4月実施学生アンケート調査の結果報告、瀬木学園紀要第1号—2007、瀬木学園紀要第2号—2008
瀬木学園紀要第3号—2009